

2024年10月26日に日本糖尿病学会近畿地方会が中之島の大阪国際会議場（グランキューブ大阪）で開催されました。



建築家 黒川紀章氏によるデザインで、中之島のランドマーク的な存在です。

主任部長は、日本糖尿病学会近畿支部評議員も仰せつかっておりますので、“座長”のお役目が回って参りました。座長？ 何それ？？と思われる皆様のために今日は座長のお仕事についてお話したいと思います。

日本糖尿病学会近畿地方会のみならず、学会ではたくさんの演題発表（自らが経験した症例の発表）があります。日本内科学会の内科専門医制度の変更に伴い、初期研修医・内科専門研修専攻医たちには、2件の演題発表のノルマが課せられています。そのため、年代を追うごとに演題発表の数は増加しています。日本糖尿病学会近畿地方会で250～300題（演題の抄録PDFより算出）、糖尿病年次学

術集会（全国レベルの総会）ではなんと 2000 題！近くも演題発表があります。

（過去 51 年間における日本糖尿病学会年次学術集会の一般演題数の推移を参照

https://www.jstage.jst.go.jp/article/tonyobyoy/52/10/52_10_871/_pdf/-char/ja）

演題発表のために、発表者の先生方は日常診療の合間を縫って、発表スライドを作成します。たった 7 分の発表と 3 分の質疑応答のために、（誇張でなく本当に）数か月かけてスライドを準備します。スライドを作り慣れない専攻医の先生方には、未知の世界であり、途方に暮れるとても大変な作業です。指導医に教えてもらって不慣れな Power Point を操作し、見よう見まねでスライドを作っては指導医にダメ出しされ、修正して指導医に見せるとさらにダメ出しされ、直ちに直したのに予演会でみんなからスライドにダメ出しされ、発表スライドのセリフ原稿もダメ出しされ、発表後の質問に答えられず、「本番までに質疑応答の準備をちゃんとしておくように」といわれて凹む、そんな壮絶な作業です（笑）。

そんな彼らが挑む“晴れの舞台”それが学会発表です。着なれないスーツを着込み、ヒールの靴を履き、発表スライドのセリフ原稿を握りしめ、いざ「発表」。

そんな彼らの発表の司会進行・発表後の質疑応答を運営するのが“座長”です。

通常 1 セッションで 6 演題あり、2 人の座長が 3 演題ずつ交代で担当します。

彼らの努力の結晶が、有意義な学会発表という形で報われるよう、座長たちもしっかり準備して一生懸命お役を務めます。座長のお役目の 1 つに演題名・演者

の所属機関・演者名をアナウンスする、と言うのがあります。演題名・演者の所属機関は問題ないことが多いのですが、最近の若い子の（出た!! 最近の若い子発言）お名前はなんて読めばいいのかわからない時があり、下調べが必須です。

（今回もかわいらしい演者の女医さん、桃望？ ももねさんでした。）

そして座長の最も大事なお役目は、発表後に演者に質問する事です。フロアの先生方から質疑応答がある場合はそちらを優先しますが、どなたからも質問がなかった場合、それで終わりにするのではなく、座長の先生がフロアの先生方に代わって演者に質問します。これがなかなか難しい!! 面白い発表では全く質問には困りませんが（そういう発表ではフロアの先生方から積極的に質問が出ることが多い）、正直、どの演題発表も希少性があり有意義で興味をそそられる発表……という訳には行きません。発表後にフロアがし～んとしていて、「何を質問したらええんやろう…」と気まずい雰囲気の中、いかにも興味深々と言った形で感じよく（しかも演者の先生が答えられそうなレベルの）質問をするのは、並大抵ではありません（笑）。お若い演者の先生をフロアで見守る指導医の先生のお姿も見えますし、次の演者が早くもそわそわしているのも目に入ります。次の座長の先生がちらっと腕時計を見たのが目に入りました（各セッションの開始・終了時間は1分単位で管理されます）。「ここ聞いて欲しいんやろうな～」 「ここ強調してはったな～」というところから、1つ2つ短時間で答えられそうなこと

をお聞きするのが場を保つコツだと思います。（空気を読む技術と時間を管理する能力が座長には求められます！）

今回の座長のお仕事の相方は、なんと主任部長の研修医時代の同級生。「もし詰まったら、こっちに振ってくれたらいいよ。何とかするから。」と言ってくれて本当に心強かったです。彼も関西の急性期病院の糖尿病センター長として頑張っていることが分かり、主任部長も負けないように枚方で一生懸命頑張ろうと心に誓った一日でした。



くたびれて京阪電車で帰る道すがら、もう外は真っ暗です。

お写真は、京阪電車からの中之島の風景です（中之島スタイル.com より引用

<https://www.nakanoshima-style.com>）皆様、ご苦労様でした！